次号予告

特　集　臨床教育
1年次臨床見学の意味と方法……金沢大学医療技術短大　田川　義勝・他
2年次臨床実習におけるスーパーヴイジョンの方法
と学生の反応……東京都立神経病院　菊池恵美子・他
実習指導者，学生間のズレ……東大病院　菊地　延子・他
3年次臨床実習における報告（実習指導の経験から）
……九州労災病院　林　克樹
3年次臨床実習における事例報告……内尾センター　郷田　調子
臨床実習における実習学生評価
……東京都府中リハビリ学院　杉原　素子
とびら　リハビリテーションについての展望
……兵庫リハビリセンター　谷合　義旦
講　座　痛みの生理学
4．痛みの免疫学……名古屋市立大学　松本　美富士
プログレス　DSM—Ⅲ　のもつ意義……東大・精神医学教室　本多　裕
リハビリテーション・インフォメーション　日本身体障害者スポーツ協会……小島　良信
日本てんかん協会……松友　了
国際障害者年日本推進協議会……事務局
世界身体障害者芸術協会……木内一味
あんてな　老人保健法(2)……国療東京病院　芳賀　敏彦

編集後記

今年は珍しい暖冬で，1月，2月にも春を思わせる日が少なくなかった。本号がお手元に届く頃にはおそらく陽ざしも本格的な春に近くなっているのではあるまいか。

さて本号は「専門職としての倫理」をシンポジウムという新しい形式で特集してみた。倫理は古くて新しい問題であり，個人の内心の問題であると共に専門職集団の自己規制の問題でもある。高度な理論的問題であると共に毎日毎日の臨床の一瞬一瞬に対決を迫られる問題でもある。多面的で一筋縄ではいかないテーマなので，シンポジウムという形で衆知を集めた論議をしてみようと思ったわけである。「医の倫理と論理」に御関心の深い砂原先生をはじめ，石村，奈良，矢谷，橋本，福屋，冨岡の諸氏に上田が司会して，まずあらかじめ原稿を書いていただいて，それをコピーして全員にくばっておき，それを読んでから集って，あらためて1つ1つのテーマ毎に議論をしていくというやり方をした。昨年10月6日のシンポジウム当日は午後3時から7時までの延々4時間のマラソン座談会で，談論風発，内容豊富であったが，編集部の努力でそれを削りに削って何とか予定の分量にまとめたのがこのシンポジウムである。今の段階でできる限りの議論をし，かなり問題を煮つめたつもりであるので，ぜひ御一読をいただきたい。

本号にはこの他，武重氏の講座「痛みの生理学」3で内因性疼痛抑制機構という最新の話題について述べていただいた。立野氏の巻頭言とともに感謝したい。最近は研究論文の投稿が増加し，質も高まってきており，編集委員一同非常に喜んでいる。プラクティカル・メモなども含め，一層の投稿をお持ちしている。　（上田　敏）

＜編集顧問＞
天児民和　九州労災病院名誉院長
五味重春　埼玉県障害者リハビリセンター所長
砂原茂一　国立療養所東京病院名誉院長
津山直一　東京大学教授・整形外科
水野祥太郎　川崎リハビリ学院長
（五十音順，以下同じ）
＜編集委員＞
上田　敏　東大リハビリ部
荻島秀男　ペインリハビリテーションクリニック高島平整形外科
大喜多潤　兵庫県リハビリセンター
寺山久美子　都心身障害者センター
冨岡詔子　加納岩総合病院
奈良勲　金沢大学医療技術短大
福屋靖子　筑波大学
松村秩　都養育院リハビリ部
＜編集同人＞
安達克己　池田俊雄　伊東元　宇都宮初夫　大丸幸　金子翼　鎌倉矩子　紀伊克昌　木村信子　駒沢治夫　佐藤馨　嶋田智明　鈴木明子　関昌家　高橋正明　中屋久長　橋元隆　藤沢しげ子　矢谷令子　山下隆昭
（担当　細田・西塚）

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2013

2026/11/11 09:07:54